

会議報告書 議事要旨 (第6回庁舎検討懇談会)

-
-
- 【日 時】 2016/2/10 13:30～15:30
- 【場 所】 会津稽古堂 3F 研修室 2
- 【委 員】 出席 10 名、欠席 6 名 (※別紙参照)
- 【事務局】 企画調整課 3 名、総務課 1 名
日本経済研究所 社会インフラ本部 2 名
- 【配付資料】
- ・次第
 - ・庁舎整備の方向性に関する意見書 (案)
 - ・【追加資料】 現庁舎の現状
 - ・【参考資料】 「第7次会津若松市総合計画」 策定に向けた全体の取組と懇談会の流れ
-
-

【議事要旨】

1. 開会 (企画調整課)

今回の懇談会は、前回までの議論を取りまとめたものを皆様に配付させていただいており、その内容を確認いただきながら、改めてご検討いただき、ご意見を頂戴していきたい。

また、懇談会は今回で最後である。前回までに庁舎整備について皆様の認識も共有できていると思うので、今回で意見を取りまとめ、後日、市長に意見書として提出する運びとしたい。

なお、懇談会の意見は、策定中の第7次会津若松市総合計画に反映させることとなる。

2. 議事 (議事進行：宮澤委員)

事務局より、配布資料をもとに、前回までの懇談会での意見や検討経過について説明する。

(1) 庁舎検討 (第5回懇談会までの意見の確認)

<委員>

市庁舎の着工時期について、P.11 のスケジュール表では平成 33、34 年頃と見込まれるが、その場合、設計は着工の 2～3 年前を目処に開始するのが理想と考える。

⇒ (企画調整課)

着工時期はまだ確定していない。進行中の小中学校の耐震化を最優先に、行仁小学校改築等が続き、市庁舎整備はその後になるものと想定される。また、市債の発行に上限があり、改築や大規模な修繕に伴う起債状況の変動に応じ着工年度が前後することが考えられる。平成 32～34 年度が見込まれるが、着工目処が立ち次第、その前数年から基本構想策定、設計等を進める必要があると考えている。

<委員>

時間的余裕があるので、この間を有効に使い、入念な検討を行うのが望ましい。

⇒ (企画調整課)

この懇談会の意見に基づいて方向性を定め、着工に向け、市民とのより詳細な検討に活かすこととしたい。

会議報告書 議事要旨（第6回庁舎検討懇談会）

<委員>

P.5 主な個々の意見で「(3)・会津若松を持続できる庁舎」という表現は、意味が分かりづらく、様々な受け取り方がある。

⇒（企画調整課）

この表現は、ワークショップの際、付箋に記載されたものである。

キャッチフレーズとしての意味合いに加え、色々な思いが込められていると捉え、それらを活かすためにそのまま示している。地理的な視点に加え、心理的な視点でも「会津若松」を持続させていきたい、という考えだと思われる。

<委員>

P.4 「(5) 歴史を継承し、会津らしいまちなかの景観を守り育てる」とあるが、市庁舎にどのように活かすのか。「(4) 情報、市民サービスのターミナルとなる」も同様である。建物自体の設計に関する事なのか、或いは市職員の行動等ソフト（機能）面のことを指すのか。機能面で現庁舎での取り組みが可能なものは、試験的に実施するのが良い。

例えば、手続きで市庁舎を訪れた際、待ち時間に展示物や映像などで市の情報が得られると良い。取り組みの結果（効果の有無等）は新庁舎に活かすことが出来ると思われる。

次の段階で市庁舎の構造的な話等をより詰めていく段階に入ると思われるが、市庁舎に求められるのは構造的な使い易さや設備の充実ばかりではないため、機能面について十分に議論すべきだと思う。

⇒（企画調整課）

非常に貴重な意見である。市民への情報伝達は課題であり、市側が多様な方法で情報提供しても、実際に認識している人はごく一部である。だからこそ、市民が庁舎を訪れた際も、市の取組について積極的に発信し、わかりやすい説明をしていく取り組みが必要と考える。現段階で取り組めることは積極的に検討したい。

市の情報発信の一例として、震災後に市で導入したデジタルサイネージがある。駅に設置したものは観光情報がメインになっているが、市庁舎利用者への情報発信手段としてもより一層活用する必要がある。

<委員>

先日の庁舎利用の際に、シールの貼りつけによる利用者満足度調査を実施していた模様。こうした、以前はなかった取り組みをもっと行うと良い。

<委員>

最終的な意見書には、「主な個々の意見」の内容も挙げていくものと認識している。

⇒（企画調整課）

皆様の個々の貴重なご意見であり、その様にしていきたい。

構成として、全ての項目における懇談会意見のまとめを前半に明示し、後半に個々の意見を続けてお示しする形となる予定である。

会議報告書 議事要旨（第6回庁舎検討懇談会）

<委員>

P.3「(1) 会津のランドマークとして、市民や市のシンボルとなる」について、第5回の懇談会で「シンボル」をより強調できるようにと加えたものと思われるが、実際の建築時には景観に配慮する必要がある。「ランドマーク」という言葉はどうしても「高い建物」の印象を与えるため、他に良い表現はないものか。

<委員>

「ランドマーク」「シンボル」と外来語表現が続くことに少々違和感がある。日本語で良い表現があれば差し替えるのが望ましい。

⇒（企画調整課）

P.3「主な個々の意見」の最後に「市内に戻ってきたということを感じ深く感じられるランドマークとして」とあるとおり、本来は心理的な意味合いで「ランドマーク」という表現を用いていたが、「ランドマーク」だけを切り取ったために違和感を覚えるものとなってしまった。「高い建物」と受け取られる可能性もあるため、再度検討し、司会進行役の宮澤委員に確認していただき、取りまとめとしたい。

（→各委員、了承）

<委員>

庁舎の他事例について、実際に利用してみてどうか、見学に行き現地で利用者の話を聞くのも良いと思う。交通費等がかかることも承知しているが、親世代は将来利用する子供のために一部自己負担があっても検討に参加したいと考える方もいるかもしれない。建設後は変更ができないことを考えると、検討段階でできるだけのことをした方が良い。

⇒（企画調整課）

事例見学ツアーをこの市庁舎懇談会の過程で実施することは困難だが、この後より詳細な検討に進んだ際には取り入れることも検討してみたい。長岡市では、全国でも珍しい市庁舎であり、見学希望者も多く視察ツアーの担当職員がいる。この視察受け入れ自体が観光になっている。実際に訪れて初めてわかる仕組みもあり、また、意見交換もできて有効と考える。

(2) 懇談会意見のとりまとめ

<委員>

P.3「1 市庁舎に求められる役割について」とP.5「2 庁舎整備の目標について」は、各項目の内容が重複しているように見えるため、まとめて良いのではないかと。

⇒（企画調整課）

「求められる役割」に基づいて目標を定めた結果、同様の表現となってしまった。

「目標」という言葉は皆様の意見として残しておきたい。この懇談会の場で同意があれば、進行役の宮澤委員と協議の上、1及び2をまとめる方向で取りまとめたい。

（→各委員、了承）

会議報告書 議事要旨（第6回庁舎検討懇談会）

<委員>

P.7「主な個々の意見」において、正面駐車場にポケットパークを設置した方が良いという案と、一方で「（ポケットパーク等は）利用がなければ意味がない」という意見がある。例えば遊具などを設置して、子供や親子連れが訪れやすくする、週末の憩いの場やイベント広場として利用できるような機能を設ける等すれば、市庁舎自体に用がなくても立寄る人が増え、市民の庁舎への心理的な距離が縮まるように思われる。

事例として、東邦銀行会津支店では利用申請、計画書等を提出することで、駐車場を一般に開放している。

⇒（企画調整課）

市庁舎に「市民が集う場所」としての役割が求められていることは、委員の総意として認識している。現庁舎では、正面を春祭りの神輿の出発点とする等でも活用していた。利用申請の手続き自体も簡易であり、もっと活用してもらえることが望ましい。

<委員>

市庁舎を市民が集う場所として期待する意見は多く、P.7で【上記に付帯する意見】として整理されている。基本的に付帯意見ではなく、懇談会としての重要な意見ではないか。

⇒（企画調整課）

市役所機能の利便性はもちろんだが、「市民が集える場所」という意見は重要なものであり、懇談会の総意として取りまとめる。

<委員>

駐車場について、市庁舎建物と同じレベルで検討を進める必要がある。6年前の鶴ヶ城周辺公共施設利活用構想を検討した際と同様である。

<委員>

財源について、できるだけ次世代の負担を増やさないように進めることが望ましい。税金だけを財源に建設・管理運営費を賄うのではなく、別の方法として、民間資金の活用や民間企業との共同運営について提案し、その意見も示されているので良い。

<委員>

P.5(4)の「ユニバーサルデザイン」や「誰もが」という表現は、対象者の範囲が曖昧に感じられ、わかりやすさに欠ける。もっと具体的に高齢者や障がい者などにもやさしいなどの表現や補足説明が必要と考える。

（→注釈として単語説明を加える対応はどうかとの意見あり、その方向で一致。）

<委員>

市庁舎の駐車場について、現在利用ルールが若干曖昧である。費用対効果を得られるかはともかく、コインパーキングのような設備の導入を検討しても良いと考える。付近の駐

会議報告書 議事要旨（第6回庁舎検討懇談会）

車場も不足していると感じている。

<委員>

この懇談会後に意見がある場合、どのように伝えたら良いか。

⇒（企画調整課）

市長への意見書提出は2月下旬を見込んでいるため、追加意見があれば2月17日までにご連絡いただきたい。なお、懇談会意見からの大幅な変更は想定していない。

⇒（企画調整課）

平成28年度は、第7次総合計画の策定年度であり、現在策定作業を進めている。懇談会の意見も、そのなかに反映していくこととなる。総合計画は、市議会で承認されれば、市民の皆様へ公表することとなる。

<委員>

今回の意見を踏まえて修正した意見書は、市長への提出前に委員全員に提示してほしい。

⇒（企画調整課）

承知した。

3. その他、連絡事項（企画調整課）

意見書の市長への提出について後日委員に連絡する。ご都合もあると思うが、ぜひ参加していただきたい。

4. 閉会

以上

会議報告書 議事要旨 (第6回庁舎検討懇談会)

(別紙)

【参加者】 (◎印…議事進行、敬称略)

氏名	備考
小林 正人	公募市民
桎屋 奈津子	公募市民
渡部 香世子	公募市民
斎藤 良雄	会津若松市区長会
宮森 泰弘 (※)	会津若松商工会議所 (代理：三橋氏)
小畑 匠	会津青年会議所
◎宮澤 洋一	会津若松スマートシティ推進協議会
竹内 樹美	福島県建築士会会津支部
佐藤 俊材	会津若松市地域公共交通会議
中川 浩然	行政機関 (福島県会津地方振興局)

計 10 名

※代理出席による

【欠席者】

氏名	備考
渡部 卓也	公募市民
大須賀 啓次	公募市民
小椋 満幸	公募市民
松嶋 加代子	公募市民
澁川 恵男	株式会社まちづくり会津
柴崎 恭秀	会津大学短期大学部教授

計 6 名